



平成30年度「大学横断的かつ競技横断的統括組織
(日本版NCAA) 創設事業」委託事業 成果報告書

2019年5月30日

学校法人浪商学園 大阪体育大学 スポーツ局

目次

| | |
|--|---------|
| 1. 実施概要 | P.2 |
| 2. 大阪体育大学スポーツ局の位置付け | P.3 |
| 3. 大阪体育大学「キャリア支援」「社会貢献」の体制 | P.4～9 |
| (1) スポーツ局の開設とSA（スポーツ・アドミニストレーター）の配置 | |
| (2) 大阪体育大学における学生のキャリア形成を支援するための運営組織・体制 | |
| (3) 大阪体育大学スポーツ局と連携する既存のキャリア支援組織と業務 | |
| (4) 大阪体育大学のキャリア支援業務の組織体制の変化 | |
| 4. 実施計画 | P.10～12 |
| 5. 実施報告 | |
| (1) 学生アスリートのキャリア形成支援 | P.13～24 |
| ①デュアルキャリア支援体制の検討 | |
| ②研修プログラムの企画 | |
| ③その他 | |
| (2) 大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化 | P.25～42 |
| ①熊取町連携事業 | |
| 1) 運動・スポーツの推進 | |
| 2) 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取組み | |
| ②地域のスポーツ振興と健康増進の事業拡充 | |
| (3) (1) (2) の施策の効果的な推進 | P.43～50 |
| ①「大学スポーツアドミニストレーター（SA）会議」の開催 | |
| ②大学スポーツの振興に資する取組み | |
| (4) 大阪体育大学が考える大学スポーツ振興の展望 | P.51 |

1. 実施概要

本学における「大学スポーツ振興」推進に関する課題

①（スポーツ局）と既存部署との連携による施策成果の創出

②地域社会における施策推進や活性化への貢献

以下の2つの施策を通じ、具現化と展望を企図する。

学生アスリートのキャリア形成支援

＜本学のキャリア形成支援＞

- 単なる就職活動スキルにとどまらず、「意識付け」「基礎学力」を含む社会人としての「基礎力形成をはかる」プログラム
- 学生アスリートの試合やトレーニング予定などにも配慮した個別の対応や展開

＜本学のデュアルキャリア支援＞

- 中高大を経て、スポーツ界に資する高度専門人材としての教育や活動も続ける体制や組織が現有
- 卒業生には、多才な人材が豊富。中高生までも対象とした卒業生の講演や研修会を企画するなどのキャリア形成支援

【方策1】

スポーツ局とキャリア支援部及び浪商中高など関連部署との連携によるデュアルキャリア支援体制についての検討・設計

【方策2】

デュアルキャリア支援を念頭においた研修プログラム

＜施策の成果を高める効果的な工夫＞

- 「スポーツキャリアサポート推進戦略 アスリートキャリアアドバイザー育成研修プログラム」で得た「デュアルキャリア」に係る様々な知見や他学とのネットワークなどを活用
- 全国体育スポーツ系大学就職担当者連絡協議会が有する知見や情報なども活用

（両施策の効果的な推進）

- ① 本施策の取り組みを、「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）」の創設一助となるよう情報提供など積極的に取り組む。
- ② 他学の取り組みなどを踏まえ「大学スポーツの振興」の様々な在り方を討議、共有を目的とした平成29年度「大学スポーツの振興」採択8校などによる「（仮称）大学スポーツアドミニストレーター（SA）会議の企画・開催

大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化

大体大ビジョン2024【拠点づくりビジョン】

体育学・スポーツ科学・教育学の研究・実践・人材の力を活かし、地域社会の活性化に貢献する拠点、および、世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートする拠点となる

＜熊取町との連携施策＞

- ① 運動・スポーツの推進
- ② 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取組み
- ③ 運動・スポーツ等施設の共同利用の検討
- ④ 職員による人事交流の検討
- ⑤ 新たな施設・環境整備の検討

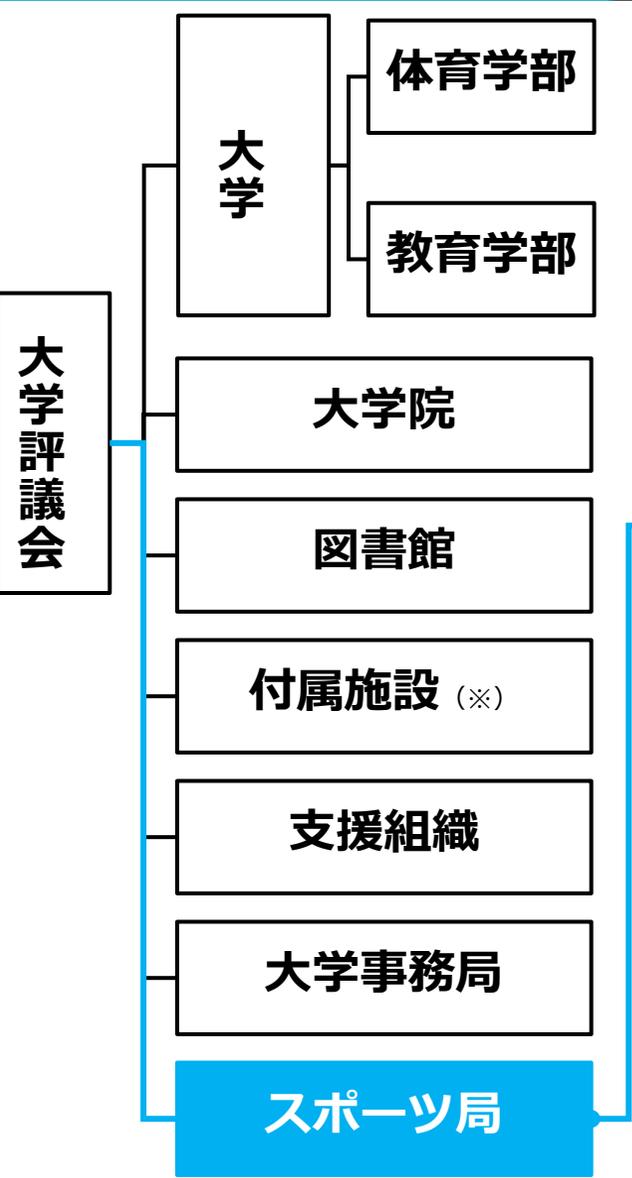
【方策】

2018年3月2日の連携協定に基づき「熊取町×大阪体育大学“DASHプロジェクト連絡協議会”を創設、必要に応じて作業部 会も進行しながら、連携施策の検討・企画・推進調整を図る。他自治体とは、スポーツ局が中心になり現行施策の整理や検証を図り、大体大ビジョン2024に照らし、各施策の充実と更なる展開を推進する。

＜施策の成果を高める効果的な工夫＞

今春から創設され、本学も正会員である「一般社団法人 大学スポーツコンソーシアム KANSAIとも連携・協力をしていながら、本学のみならず広く「大学スポーツの振興」に資する展開を図る

2. 大阪体育大学スポーツ局の位置付け（教育研究上の組織／2018年9月2日現在）

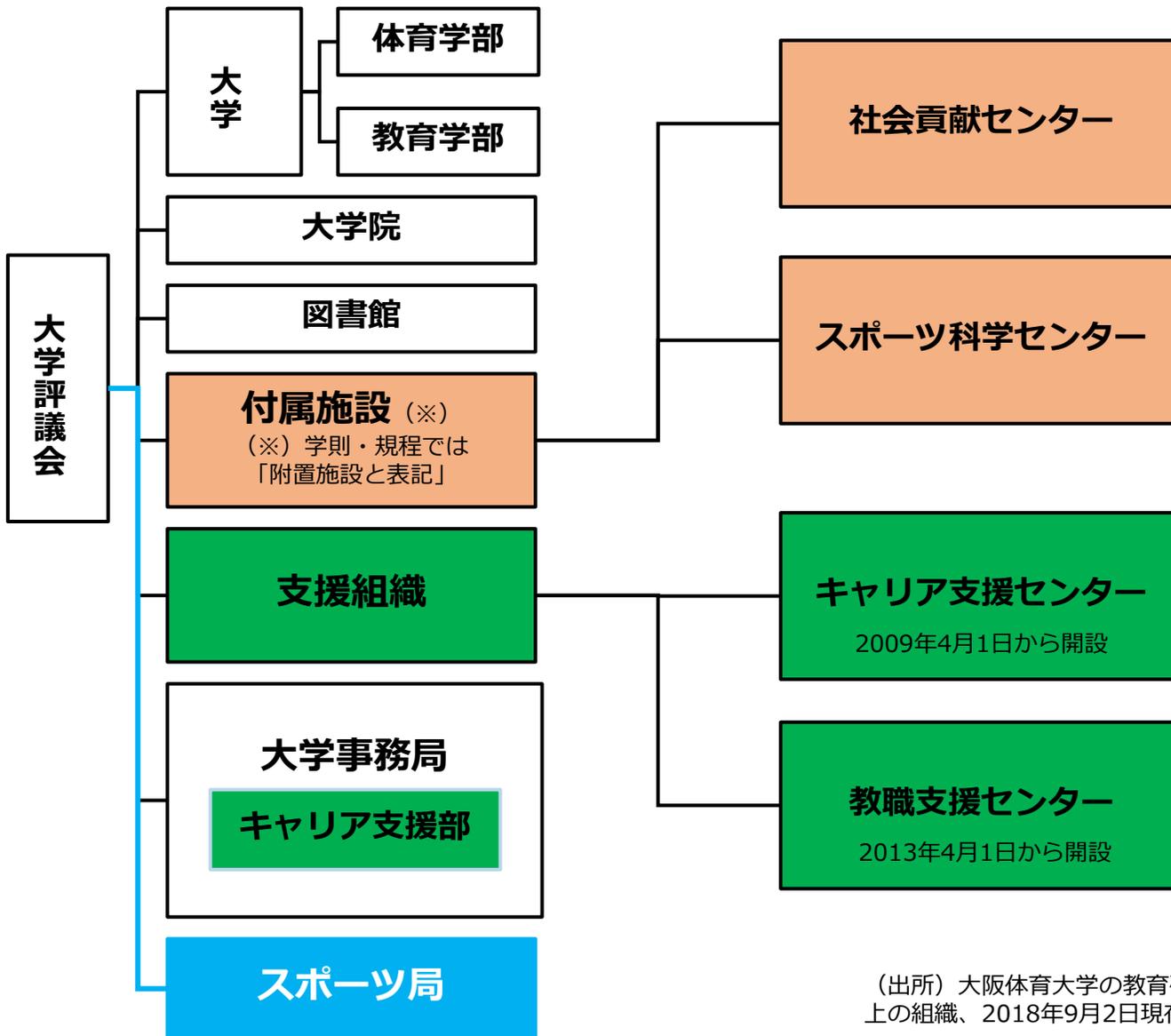


スポーツ局の業務と事業

- (1) 運動クラブの統括（強化・支援・評価・管理）
- (2) アスリートの選抜・確保・支援・育成・強化
- (3) 運動クラブやアスリートの競技力向上に係る指導者やスタッフの支援と活動環境の整備
- (4) 学生アスリートの修学、**キャリア形成**、生活の支援
- (5) 実践的なスポーツ科学研究及び教育の推進とその環境、体制の整備
- (6) 中高大連携の促進を通じた中長期的なスポーツ人材育成システムの構築
- (7) **地域社会の健康増進やスポーツ振興に資する事業の企画・推進を通じた拠点づくりの実現**
- (8) スポーツ局の所管事項に係る広報活動及び卒業生や他機関との連携、ネットワーキング
- (9) 本学の運動クラブやアスリート及びスポーツ局が行う事業のブランディングやその管理
- (10) その他スポーツ局に関すること

- （出所）大阪体育大学の教育研究等活動の状況に関する情報の公表「教育研究上の組織、2018年9月2日現在」の組織図に基づきから作成
- （※）学則・規定では「附置施設と表記」

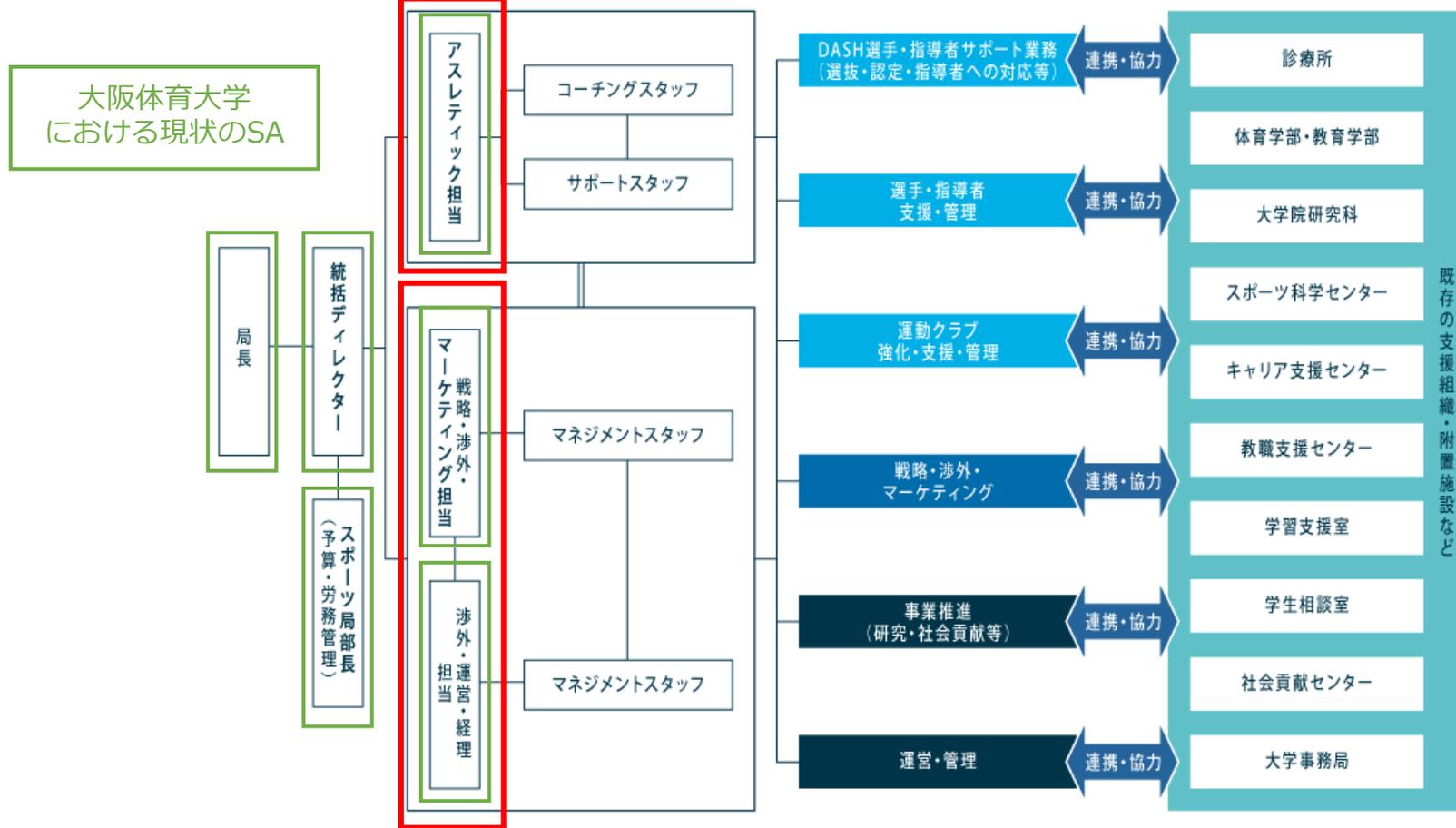
3. 大阪体育大学「キャリア支援」「社会貢献」の体制



(出所) 大阪体育大学の教育研究等活動の状況に関する情報の公表「教育研究上の組織、2018年9月2日現在」の組織図に基づきから作成

(1) スポーツ局の開設とSA (スポーツ・アドミニストレーター) の配置

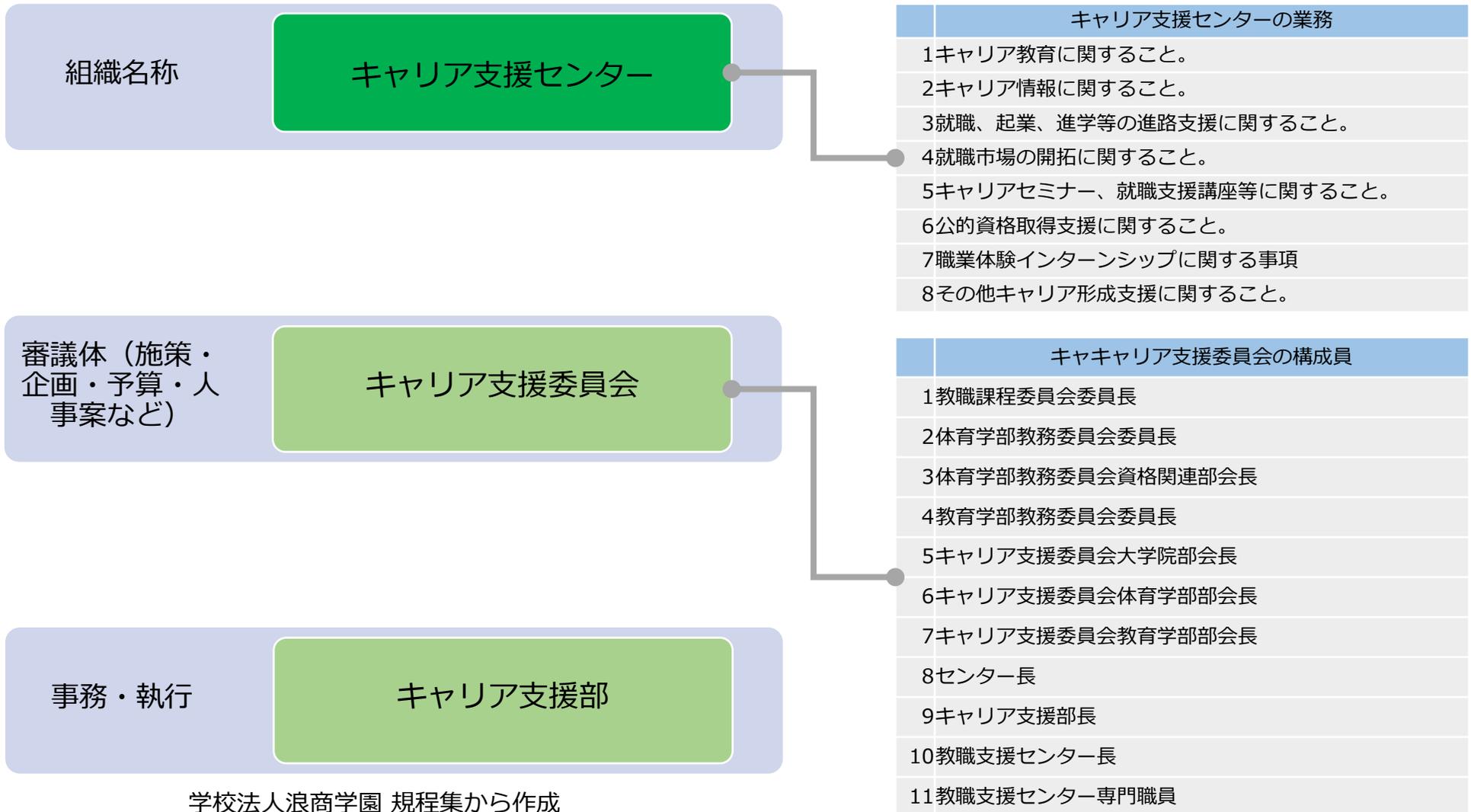
■スポーツ局組織体制(2018年4月1日現在)



- 大阪体育大学SAの中でも、「キャリア支援施策」は、2017年度日本スポーツ振興センター主催スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポート推進戦略・アドバイザー養成研修プログラム」を受講し、本学の「アスリートキャリアアドバイザー」として「アスレティック担当」が主として、学内既存担当部署との連絡調整・推進役を担った。
- 「地域貢献及び活性化」は、スポーツ局の主要業務であり、「戦略・渉外・マーケティング担当(統括ディレクターが兼務)」「渉外・運営・経理担当」が中心となりながら、「アスレティック担当」の各々が適宜役割分担をしながら、担当した。

(出所) スポーツ局公式サイトより引用
(<https://ouhs-athletics.jp/>)

(2) 大阪体育大学における学生のキャリア形成を支援するための運営組織・体制（その1）



(2) 大阪体育大学における学生のキャリア形成を支援するための運営組織・体制（その2）



| 教職支援センターの業務 | |
|-------------|-------------------------------------|
| 1 | 教職課程に関する教育の改善を図るために必要な企画及び運営に関すること。 |
| 2 | 教職課程に関する教育の改善を図るために必要な調査・研究に関すること。 |
| 3 | 教職課程認定申請手続き等に関すること。 |
| 4 | 大学間協定に基づく小学校教員免許プログラムに関すること。 |
| 5 | 教育実習に関すること。 |
| 6 | 介護等体験に関すること。 |
| 7 | 教員免許申請に関すること。 |
| 8 | 教員採用試験等、教員採用に係る支援に関すること。 |
| 9 | 教職教育に関する各種研修（教員免許状更新講習を含む）に関すること。 |
| 10 | 教育委員会、地域教育機関及び教育現場との連携協力に関すること。 |
| 11 | その他センターの目的達成のために必要なこと。 |

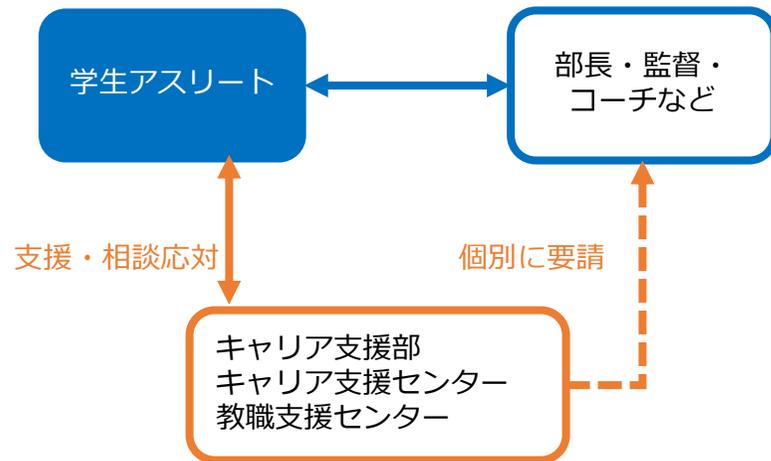
学校法人浪商学園 規程集に基づき抜粋、作成

(3) 大阪体育大学スポーツ局と連携する既存のキャリア支援組織と業務

| | | 連携する既存組織 | | |
|----------------|----|--|----------|---|
| | | キャリア支援センター | 教職支援センター | |
| 大阪体育大学スポーツ局の業務 | 1 | 運動クラブの統括（強化・支援・評価・管理） | | |
| | 2 | アスリートの選抜・確保・支援・育成・強化 | ● | ● |
| | 3 | 運動クラブやアスリートの競技力向上に係る指導者やスタッフの支援と活動環境の整備 | | |
| | 4 | 学生アスリートの修学、キャリア形成、生活の支援 | ● | ● |
| | 5 | 実践的なスポーツ科学研究及び教育の推進とその環境、体制の整備 | | |
| | 6 | 中高大連携の促進を通じた中長期的なスポーツ人材育成システムの構築 | | |
| | 7 | 地域社会の健康増進やスポーツ振興に資する事業の企画・推進を通じた拠点づくりの実現 | | |
| | 8 | スポーツ局の所管事項に係る広報活動及び卒業生や他機関との連携、ネットワーキング | ● | ● |
| | 9 | 本学の運動クラブやアスリート及びスポーツ局が行う事業のブランディングやその管理 | | |
| | 10 | その他スポーツ局に関すること | | |

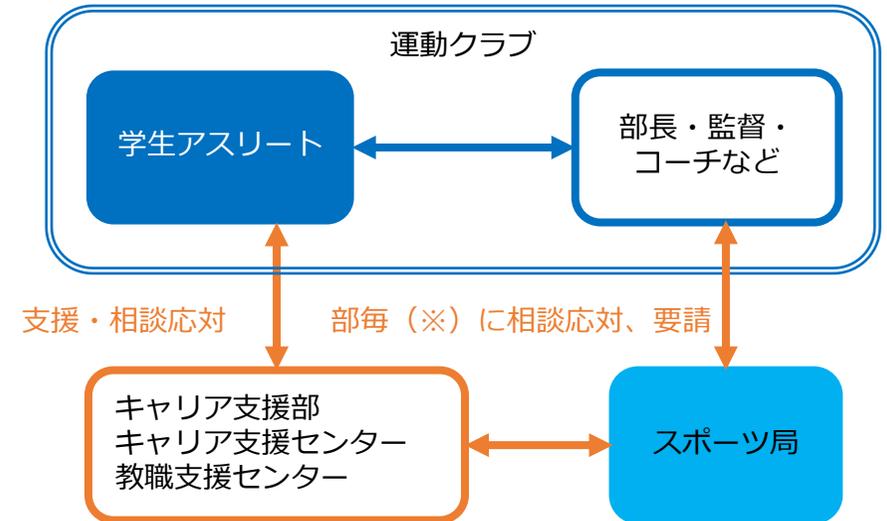
(4) 大阪体育大学のキャリア支援業務の組織体制の変化

<スポーツ局設置前>



全学的なキャリア支援策を、学内キャリア支援関連部署が担ってきた。

<スポーツ局設置後（2018年度～）>

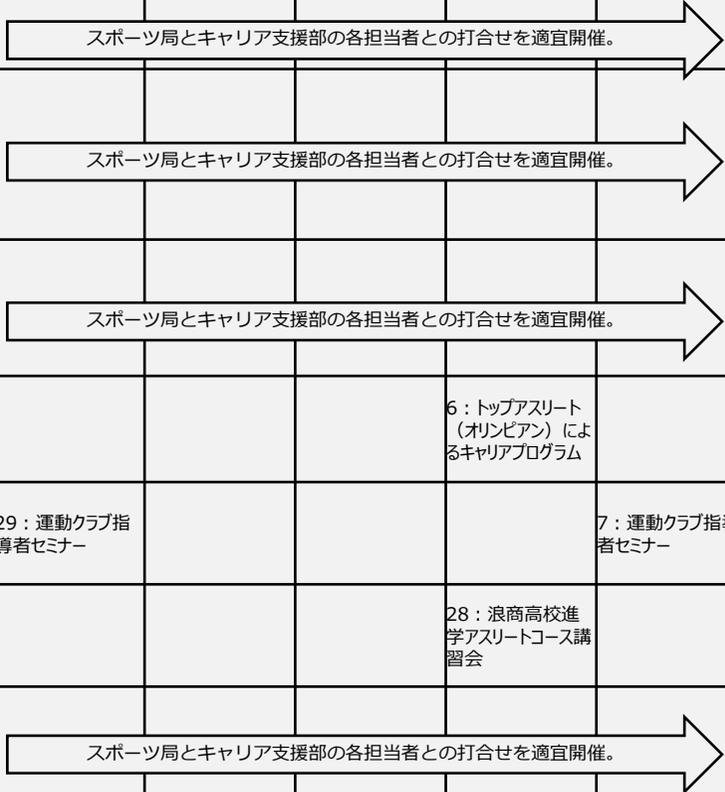


部や学生アスリートの個別事情（遠征や試合など競技活動）に応じた対応をキャリア支援担当部署とスポーツ局が連携して対応が可能になる。

4. 実施計画（1）学生アスリートのキャリア形成支援

（1）学生アスリートのキャリア形成支援は、デュアルキャリア支援体制の検討、研修プログラムの企画、その他の3つの軸で構成し、取り組んだ。

| 事業内容 | | 具体的な取り組み | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|-------------------------|---|--|--------------|---|-----|-----------------|----|----|------------------------|--------------------------------|
| （1） 学生アスリートのキャリア形成支援 | ①デュアルキャリア支援体制の検討 | 1) デュアルキャリア支援体制ミーティングの開催 ・デュアルキャリアに関する実績の共有と、課題の抽出を行う ・スポーツ局、キャリア支援部、浪商中高などの関連部署の担当者によるミーティングの開催する | | 5：浪商学園デュアルキャリア支援体制MTG 19日：デュアルキャリア支援体制MTG/JSCデュアルキャリア支援体制MTG | | | | | 26：浪商学園デュアルキャリア支援体制MTG | |
| | | 2) 学生アスリートが目指すべき「キャリア像」の確立 ・大学生として競技生活を送る上で必要な要素を明確化する ・OB・OGの多様な事例を参考に多角的な視点でキャリア像を確立する | | | | | | | | |
| | | 3) 「大体大デュアルキャリア支援プログラム」の立案（短・中・長期に渡る展望） ・アスリートキャリアアドバイザーの配置を検討する ・中高～大学、さらに卒業後に至る支援環境づくりの検討 | 2018年4月～局員配置 | 23：ハイパフォーマンスカンファレンスに参加 | | | | | | |
| | ②研修プログラムの企画 | 1) 運動クラブに所属する学生へのガイダンスに開催 ・「大阪体育大学アスリートハンドブック」の説明とアスリートセミナーを開催する | | | | | | | | 6：トップアスリート（オリンピック）によるキャリアプログラム |
| | | 2) アントラージュへの講習会の企画 ・指導者（監督、コーチ）や教員、保護者などに対して、キャリア形成に関する意識啓発・理解増進を行う | | | | 29：運動クラブ指導者セミナー | | | | 7：運動クラブ指導者セミナー |
| | | 3) 浪商中高に対するキャリア教育の実施 ・転換期を迎えるアスリート（部活動に所属）を対象にキャリアに関する意識づけを行う | | | | | | | | 28：浪商高校進学アスリートコース講習会 |
| ③その他 | SNS媒体(LINE@ / YouTube etc)を活用したキャリア関連情報告知媒体の企画・検討 | | | | | | | | | |



4. 実施計画（2）大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化

（2）大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化は、主に熊取町との連携協定に基づいた施策の検討と実施を行い、加えて、本学を拠点にした各種のスポーツ事業の企画・推進に取り組んだ。

| 事業内容 | | 具体的な取り組み | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|--|--------------------------|---|-------------------|--|-------------------|-----|--------------------------------|--------------------|-------------------|
| （2）大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化 | ①熊取町連携事業 | 「熊取町×大阪体育大学」DASHプロジェクト連絡協議会にて連携事業の検討・企画・推進調整を図る（月1回程度のPT定例会や、必要に応じた作業部会も同時に進行する） | | 31：健康作業部会 | 7：PT定例会 8：健康WG | | 8：健康WG 16：PT定例会 30：連絡協議会 | 6：PT定例会 14：健康WG | |
| | 1）運動・スポーツの推進 | 小学校「放課後スポーツ教室」トライアル実施 ・「熊取西小学校」をモデル校として選定する ・学内での運営事務局の立ち上げとともに指導者バンク（学生指導者の研修と登録制度）を設立する | | | 7：プロジェクトMTGで検討 | | | | |
| | | 中学校「外部指導者派遣事業」トライアル実施 ・「熊取北中学校」「熊取南中学校」をモデル校として選定する ・学内での運営事務局の立ち上げとともに学生指導者の研修と登録制度を整備する | | | 7：プロジェクトMTGで検討 | | | | 28：モデル校でのトライアルを実施 |
| | | 小学校・中学校両事業の本格開始にむけた検討 ・小学生の体力向上と放課後の居場所づくりの創出する ・中学生の継続的なスポーツ環境の整備する | | | 7：プロジェクトMTGで検討 | | | | |
| | 2）健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取り組み | 1）既存事業に関する評価基準の策定 ・健康体操事業における体力測定の評価項目の見直し ・測定スタッフへの研修による知識・技術の均一化を図る | | | | | | | 20：体力測定研修会 |
| 2）健康体操事業のさらなる拡充と展開 ・地域においてプログラム推進を担う人材を育成する | | | | 2：若返り講座 | | | | 19：タピオーション交流会 | |
| 3）熊取町における高齢化問題の解決に向けた環境づくり ・測定データの可視化により施策を検証する | | | | | 既存データの件数確認 | | | | |
| ②大学の経営資源を活用したスポーツ事業の企画・推進 | | | 5～12上海市体操運動センター来校 | 18大阪府剣道道場連盟主催「剣道練成会 18：出張！ギソクの図書館 29：指導者セミナー | 3：女子バスケ交流戦 | | 24：OUHSスポーツデー | | |

4. 実施計画（3）（1）（2）の施策の効果的な推進

（1）（2）の施策・実績の情報や課題の共有を目的としたスポーツアドミニストレーター会議（SA会議）を企画開催し、「日本版NCAA創設」や「大学スポーツコンソーシアムKANSAI」への参加などを通じ、大学スポーツの振興に資する施策に取り組んだ。

| 事業内容 | | 具体的な取り組み | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|------------------------------|--|-----------------------------|-----|------------------|------------------------------------|---------------------|--|-----------------------------------|
| (3) の 効果 的 な 推 進 (1) (2) の 施 策 | ①「大学スポーツアドミニストレーター（SA）会議」の開催 | 各大学でのスポーツ推進を担うSAによる担当者会議の企画 ・「SA」の視点から各大学での事例や課題を共有することで、大学スポーツの在り方を討議する ・関西地区の大学に加え、平成29年度「大学スポーツの振興」採択8校のSAに協力要請する | | | | | | 24：全国アドミニストレーター会議 25日：UNIVAS設立準備委員会 | |
| | ②大学スポーツの振興に資する取り組み | 大学スポーツの振興を目的とした組織間、大学間での積極的な協力体制の推進 ・「日本版NCAA」「大学スポーツコンソーシアムKANSAI」との連携によるネットワークの構築する ・各大学の知見やノウハウを共有する | 19：日本版NCAA作業部会 22：KCAA会議 | | 5：UNIVAS（※2）作業部会 | 11：UNIVAS作業部会 26日：UNIVAS設立準備委員会 | 29：KCAAアドミニストレーター会議 | | 4スポーツマネジメント学会 9日：KCAA総会、シンポジウム |

(1) 学生アスリートのキャリア形成支援

①デュアルキャリア支援体制の検討

- 1) デュアルキャリア支援体制ミーティングの開催
 - ・デュアルキャリアに関する実績の共有と、課題の抽出を行った
 - ・スポーツ局、キャリア支援部、浪商中高などの関連部署の担当者によるミーティングの開催した
- 2) 学生アスリートが目指すべき「キャリア像」の確立
 - ・大学生として競技生活を送る上で必要な要素を明確化する
 - ・OB・OGの多様な事例を参考に多角的な視点でキャリア像を確立する
- 3) 「大体大デュアルキャリア支援プログラム」の立案（短・中・長期に渡る展望）
 - ・アスリートキャリアアドバイザーの配置を検討する
 - ・中高～大学、さらに卒業後に至る支援環境づくり

②研修プログラムの企画

- 1) 運動クラブに所属する学生へのガイダンス開催
 - ・「大阪体育大学アスリートハンドブック」の説明とアスリートセミナーを開催する
- 2) アントラージュへの講習会の企画
 - ・指導者（監督、コーチ）や教員、保護者などに対して、キャリア形成に関する意識啓発・理解増進を行う
- 3) 浪商中高に対するキャリア教育の実施
 - ・転換期を迎えるアスリート（部活動に所属）を対象にキャリアに関する意識づけを行う

③その他

SNS媒体(LINE@ / YouTube etc)を活用したキャリア関連情報告知媒体の企画・検討

(1) 学生アスリートのキャリア形成支援 ①デュアルキャリア支援体制の検討

▶現状の学生アスリートのキャリア形成支援の課題

- 既存部署・組織との連携による、施策効果の創出
- 卒業後の就職、セカンドライフキャリア形成中心
 - 就職活動スキルが中心

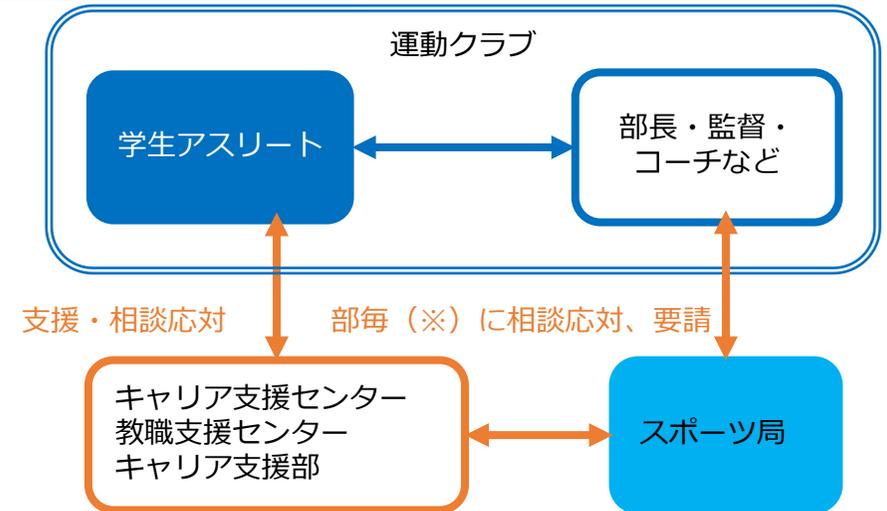
▶具体的な取り組み

- デュアルキャリア支援体制ミーティングの開催
 - ・デュアルキャリアに関する実績の共有と課題の抽出を行う
 - ・スポーツ局、キャリア支援部、浪商中高などの関連部署の担当者によるミーティングの開催する
- 学生アスリートが目指すべき「キャリア像」の確立
 - ・大学生として競技生活を送る上で必要な要素を明確化する
 - ・OBOGの多様な事例を参考に多角的な視点でキャリア像を確立する
- 「大体大デュアルキャリア支援プログラム」の立案（短・中・長期に渡る展望）
 - ・アスリートキャリアアドバイザーの配置を検討する
 - ・中高～大学、さらに卒業後に至る支援環境づくり

▶目標・目指す学生アスリートのキャリア像

- 体育・スポーツの専門大学だからこそその次代の体育・スポーツ・健康業界を担う人材の育成と輩出
- 自身のスポーツ活動と学業の両立＝デュアルキャリア支援体制「アスリート」の競技生活のみならず、「人」としての日常生活や将来の人生設計、様々な個々人の出来事をうまく組み合わせて自己実現を図る
- 地域におけるスポーツの実践活動を通じた地域貢献

▶キャリア支援体制図



■実施計画 具体的な取り組み

- 1) デュアルキャリア支援体制ミーティングの開催
 - デュアルキャリアに関する実績の共有と、課題の抽出を行う
 - スポーツ局、キャリア支援部、浪商中高などの関連部署の担当者によるミーティングを開催する

■実施実績

- **大阪体育大学部署間・教職員連携** ▶ 主なテーマ：デュアルキャリア支援体制全体構想の共有・既存部署の連携
 - ① 2018年10月19日（金） ▶ 主なテーマ：連携、現状の課題、施策・企画の進捗確認
参加：藤本教授（学長補佐（大学ビジョン担当））、教職支援センター担当者、学習支援室担当者、スポーツ局担当者
議論共有した内容：各部門・施設の連携、現状の課題、2018年度の施策・企画の進捗確認
- **浪商学園高校連携** ▶ 主なテーマ：中高大の連携、現状の課題、デュアルキャリア研修プログラム施策・企画の進捗確認
 - ① 2018年10月5日（金）
参加：（浪商高校）工藤教頭、永井先生、（スポーツ局）姫路、森田
 - ② 2019年2月26日（火） ▶ 主なテーマ：施策・企画の確認
参加：（浪商高校）工藤教頭、永井先生、（スポーツ局）姫路、森田
- **日本スポーツ振興センター** ▶ 主なテーマ：デュアルキャリア支援体制全体構想の共有・連携
 - ① 2018年10月19日（金）日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンスセンター ハイパフォーマンス戦略部戦略課
参加：日本スポーツ振興センター河合氏、山田氏、藤本教授、土屋教授、（スポーツ局）浦久保、森田
議論共有した内容：各部門・施設の連携、現状の課題、2018年度の施策・企画の進捗確認

■実施計画 具体的な取り組み

- 2) 学生アスリートが目指すべき「キャリア像」の確立
- 大学生として競技生活を送る上で必要な要素を明確化する
 - OB・OGの多様な事例を参考に多角的な視点でキャリア像を確立する

■実施実績

大阪体育大学のキャリア形成ビジョン



大阪体育大学 キャリア支援部作成資料から作成

デュアルキャリア支援体制の学内ミーティングや、キャリア支援部担当者とスポーツ局アスレティック担当（アスリートキャリアアドバイザー）間でのミーティングを通して、大阪体育大学のキャリア形成ビジョンを検討・共有を図った。

左図のように、アスリートとしての「パフォーマンス向上」は当然のことながら、「学生アスリート」としての基盤となる「教養力」「社会性の発達（醸成）」「自己の成長（への努力）」の修得を、全学的にはもちろんのこと、キャリア支援部とスポーツ局でそのコンセプトの共有と環境整備に取り組むよう確認した。

次年度以降、全学的なキャリア支援業務や事業に加え、両部門と協働して、学生アスリートのキャリアプログラムを展開することとした。

■実施計画 具体的な取り組み

- 3) 大体大デュアルキャリア支援プログラム」の立案（短・中・長期に渡る展望）
 - アスリートキャリアアドバイザーの配置を検討する
 - 中高～大学、さらに卒業後に至る支援環境づくり

■実施実績

①2018年10月23日（火）・24日（水）

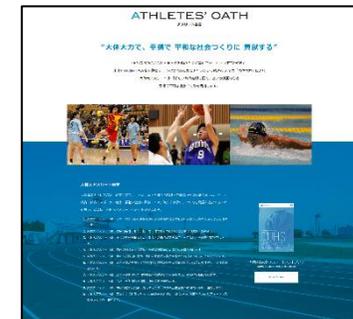
「ハイパフォーマンススポーツ・カンファレンス2018～平昌から東京へ～」で、講師としてスポーツ局SAの森田が登壇、デュアルキャリア支援における本学の取り組みを発表。
他大学や、研究者との情報交換による知見を積み重ね、本学の取り組みのさらなる強化へつなげた。

②2019年2月～

大阪体育大学スポーツ局WEBサイトを開設、WEBサイトを活用したデュアルキャリアプログラムの周知や啓発ができる基盤を整備。

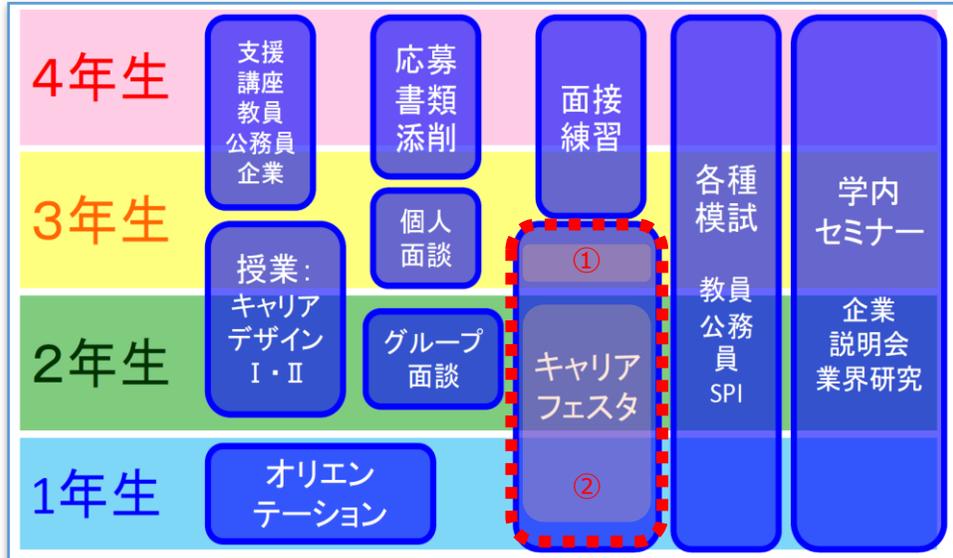
③2018年11月～2019年3月

2019年度以降からのスポーツ局とキャリア支援センターとのデュアルキャリア支援体制の整備・展開について協議。



■キャリアフェスタの開催

▶大阪体育大学キャリア支援センター
キャリア支援全体プログラム



大阪体育大学キャリア支援部作成資料

①2018年9月25日（火）・26日（水）

対象：3年生

実施概要：様々な企業、団体の採用担当者からの講演を通して、アスリートとしてのキャリアと、卒業後のキャリアを考えるため、様々な企業・職業を知ることが目的とした行事。就職活動の一環としての行事も兼ねている。

②2019年2月8日（金）

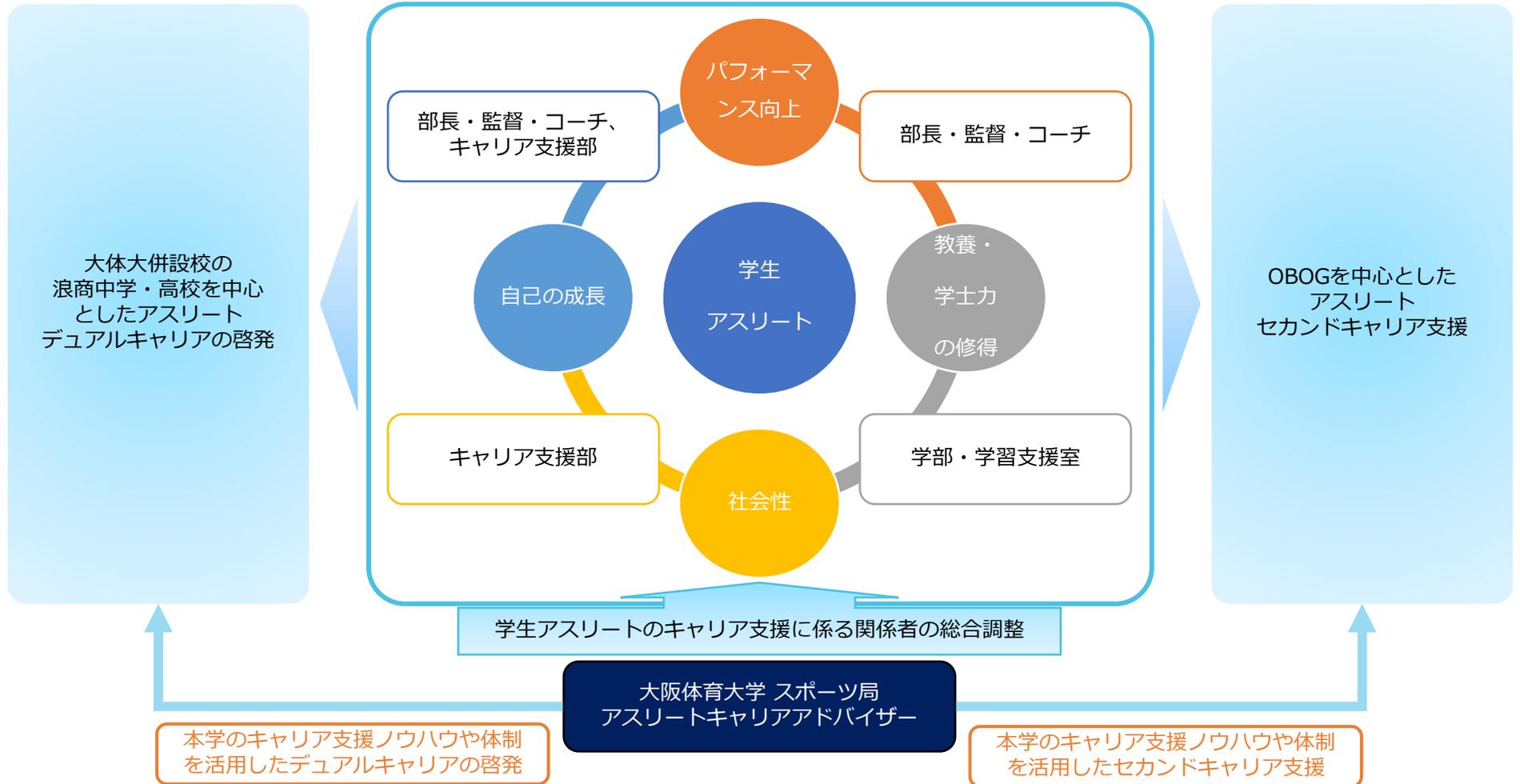
対象：1年生・2年生

実施概要：1年生は、前東北楽天ゴールデンイーグルス監督梨田氏、本学OBの上田氏を講師に招き、梨田氏は「社会で活躍し頂点を極めるに必要な人間力」、上田氏は「夢を実現するためにいま貴方が出来ることは何ですか？」というタイトルでの講演を受講。

2年生は、企業、団体に勤めるOB/OGと面談できるブースで先輩からのメッセージと質疑応答を行った。アスリートとしてのキャリア形成と、卒業後のキャリアを考えるための、早期の動機付けを目的とした行事

各々の開催後にアンケートを実施。2年生は様々な企業・職業を知ることができたという声が多くあった。1年生は、次年度2年生で学びたい項目という複数回答の設問で、「業界・業種」「今後の目標設定」という回答が1位、2位と続いていた。2年生は、今後自分に必要な項目という複数回答の設問で、「自己啓発と自己分析」という回答が1位となった。

大体大における学生アスリートのキャリア支援の体制と展望



▶ 現状の研修プログラムの課題

- 学生アスリートのデュアルキャリア形成
- 指導者（部長・監督・コーチ）への研修と理解、促進
- 浪商学園高校・中学校との連携
- 短・中・長期に渡る展望に沿った研修の企画

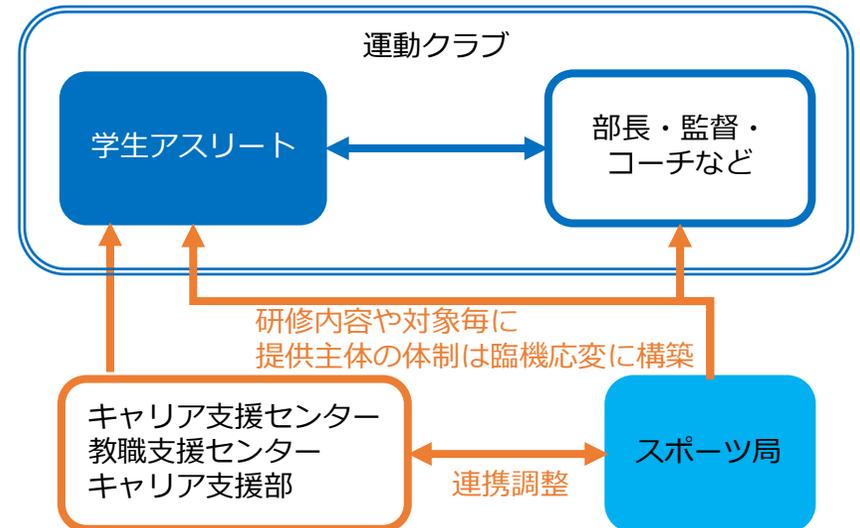
▶ 具体的な取り組み

- i 運動クラブに所属する学生へのガイダンス開催
「大阪体育大学アスリートハンドブック」の説明とアスリートセミナーを開催する
- ii アントラージュへの講習会の企画
指導者（監督、コーチ）や教員、保護者などに対して、キャリア形成に関する意識啓発・理解増進を行う
- iii 浪商中高に対するキャリア教育の実施
転換期を迎えるアスリート（部活動に所属）を対象にキャリアに関する意識づけを行う
- iv 上記の研修プログラムの検証
「アスリートライフスキル」に関するアンケート調査の実施

▶ 目標とする研修プログラム

- 単なる就職活動スキルにとどまらず、「意識付け」「基礎学力」を含む社会人としての「基礎力形成をはかる」プログラム
- 学生アスリートの試合やトレーニング予定などにも配慮した個別の対応や展開
- 中高大を経て、スポーツ界に資する高度専門人材としての教育や活動も続ける体制や組織が現有
- 卒業生には、多才な人材が豊富。中高生までも対象とした卒業生の講演や研修会を企画するなどのキャリア形成支援

▶ 研修プログラム運営体制



■ 実施計画 具体的な取り組み

- 1) 運動クラブに所属する学生へのガイダンスの開催
 - 「大阪体育大学アスリートハンドブック」の説明とアスリートセミナーを開催する

■ 実施実績

実施期間：2018年8月～10月31日

対象：全47の運動クラブ所属学生

内容：2018年度制作の「大阪体育大学アスリートハンドブック」を利用し、キャリア形成に必要な知識・スキル、行動規範を中心に、運動クラブの所属する全学生を対象に、ガイダンスを実施。

「大阪体育大学アスリートハンドブック」は印刷物を全員に配布。加えてスポーツ局WEBサイトからも資料を閲覧できるようにした。

アスリートハンドブック (2019年度版)



| INDEX | |
|--------------------------|----|
| 序章 | |
| 学長挨拶 | 01 |
| スポーツ局 局長挨拶 | 02 |
| 第一章 大体大アスリート宣言 | |
| 1 建学の精神および理念 | 03 |
| 2 卒業期を支えた二人の偉人の志 | 04 |
| 3 大体大ビジョン2024 | 05 |
| 4 DASHプロジェクト | 06 |
| 5 スポーツ局のミッションおよびスポーツ強化方針 | 08 |
| 6 大体大アスリート宣言 | 10 |
| 第二章 スポーツパーソンシップと行動規範 | |
| 1 スポーツパーソンシップ | 11 |
| 2 行動規範 | 13 |
| 第三章 アスリートサポート | |
| 1 学業 | 17 |
| 2 スポーツ活動 | 18 |
| 3 キャリア | 21 |

配布+ガイダンス

運動クラブに所属する学生へのガイダンス



(出所) <https://ouhs-athletics.jp/wp-content/uploads/2019/03/athretehdbk2019.pdf>

■ 実施実績

実施日：2019年2月6日（水）アスリートセミナーの開催

講師：寺内 健氏（※企画当初は本学のOB/OGで調整を行っていたが、直前に参加が不可となった為、寺内氏に依頼）

実施概要：アスリートライフ（パフォーマンスやトレーニング）に必要な環境を確保しつつ、将来に向けたキャリア形成に必要な「教育」や「社会性の発達」「自己開発」の醸成を目的として企画し、実施した。

講師：寺内 健氏（ミキハウス所属・本学OG）競技成績：5大会連続オリンピック出場（飛込競技）2001年世界選手権銅メダル、2006年アジア大会銅メダル

セミナーテーマ：「学生アスリートにおける、デュアルキャリアの重要性を考える」

学生アスリートは、スポーツを通じて培った肉体的な健全さとともに、コミュニケーション力、協調性、目標設定能力といった精神面での「強み」を有しています。それらを活用し、アスリートとしての成長とキャリア形成における人間的な成長の両方を促進させることの、双方への有益性を解説し、デュアルキャリアを実践することでビジネスの世界でも成功を収めているスポーツプレイヤーの実体験を参考にしながら、参加者の理解を深めることをテーマとした。

対象：本学の学生



学生アスリートのキャリア形成支援
（学生アスリートが目指すべき「キャリア像」の確立）

■ 実施計画 具体的な取り組み

2) アントラージュへの講習会の企画

- 指導者（監督、コーチ）や教員、保護者などに対して、キャリア形成に関する意識啓発・理解増進を行う

■ 実施実績

① 2018年11月29日（木）

セミナー内容：大学運動部の発展のために～学生アスリートを、クラブを、自分を守るために～

講師：岡本 大典 弁護士（大阪弁護士会会員、松柏法律事務所大阪弁護士会スポーツ・エンタテインメント法実務研究会会員）

② 2019年3月2日（土）保護者懇談会（滋賀県草津市内）

開催概要：保護者への、学業成績・学生のキャリア形成に対して、意見交換を行い、学生アスリートのキャリア形成支援を図った。

2018年11月29日（木）開催

大学運動部の発展のために～学生アスリートを、クラブを、自分を守るために～



2019年3月2日（土）保護者懇談会



■ 実施計画 具体的な取り組み

3) 浪商中高に対するキャリア教育の実施

- 転換期を迎えるアスリート（部活動に所属）を対象にキャリアに関する意識づけを行う

■ 実施実績

2019年2月28日（木）

浪商学園高校・進学スポーツコースの学生に対して、デュアルキャリア研修の実施

講師：森田 卓（アスリートキャリアアドバイザー、スポーツ局員）

実施概要：日本スポーツ振興センター作成のデュアルキャリア研修資料を基に、育成年代において、人としての成長と競技生活の両立を図りながら、競技に専念していくことの大切さを理解することをテーマとした。

対象：浪商学園高校 アスリート進学コースの2年生

浪商学園高校・進学スポーツコースの学生に対して、デュアルキャリア研修の実施



5. 実施報告

(2) 大学スポーツ振興を通じた地域貢献、地域活性化

①熊取町連携事業

「熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会」(後掲)にて連携事業の検討・企画・推進調整を図る

1) 運動・スポーツの推進

- 小学校「放課後スポーツ教室」トライアル実施
- 中学校「外部指導者派遣事業」トライアル実施
- 小学校・中学校両事業の本格開始

2) 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取組み

- 1) 既存事業に関する評価基準の策定
- 2) 健康体操事業のさらなる拡充と展開
- 3) 熊取町における高齢化問題の解決に向けた環境づくり

②地域のスポーツ振興と健康増進の事業拡充

■実施計画 具体的な取り組み

①熊取町連携事業

「熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会」にて連携事業の検討・企画・推進調整を図る

■実施実績

熊取町と大阪体育大学は2018年3月2日に、「熊取町×DASHプロジェクトに関する協働協定を締結。

熊取町は「DASHプロジェクトチーム」として、理事級が参画して体制を構築。大阪体育大学は「熊取町×DASHプロジェクト推進委員会」として、教職員で体制を構築。

「熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会」を最上位の会議体とし、その下部に「PT定例会」「合同WG（作業部会）」を設け、定例で会議を開催（別掲・参照資料③）

双方の要望や、意見交換を行いながら、事業費用の予算化、取り組み施策の協議と双方の利害の調整を行い、連携を推進した。（後掲）

2018年3月2日締結、“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクトに関する協働協定

連絡協議会資料
平成30年5月15日
熊取町企画課



“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト に関する協働協定の締結について

平成30年3月2日に「熊取町×大阪体育大学」DASHプロジェクトに関する協働協定を締結し、下記のとおり締結式を行いました。

この協定は、平成17年3月29日に締結しました「熊取町と大阪体育大学との連携協力に関する協定書」に基づく新たな取組みとして、平成30年4月、大阪体育大学内にスポーツ局が設置されることを契機として、協働で事業推進していくものです。

記

- 1 行事名 “熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクトに関する協働協定締結式
- 2 日時 平成30年3月2日（金）12時20分～12時35分
- 3 場所 大阪体育大学（住所：大阪府泉南郡熊取町朝台1-1）
- 4 出席者 熊取町 町長 藤原 敬司
大阪体育大学 学長 岩上 空孝



1

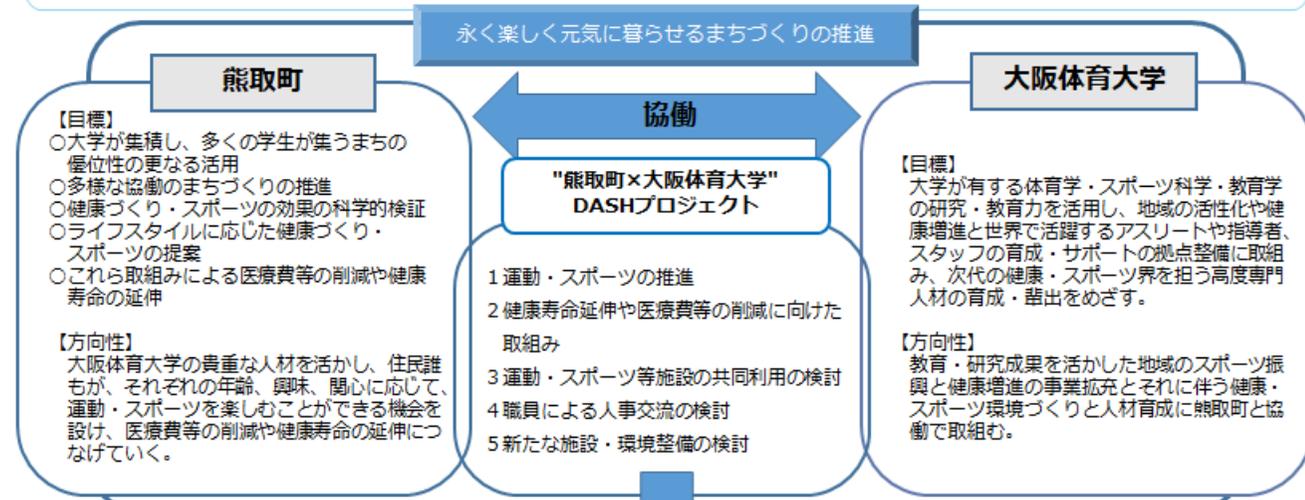


“熊取町×大阪体育大学” DASHプロジェクト



基本方針

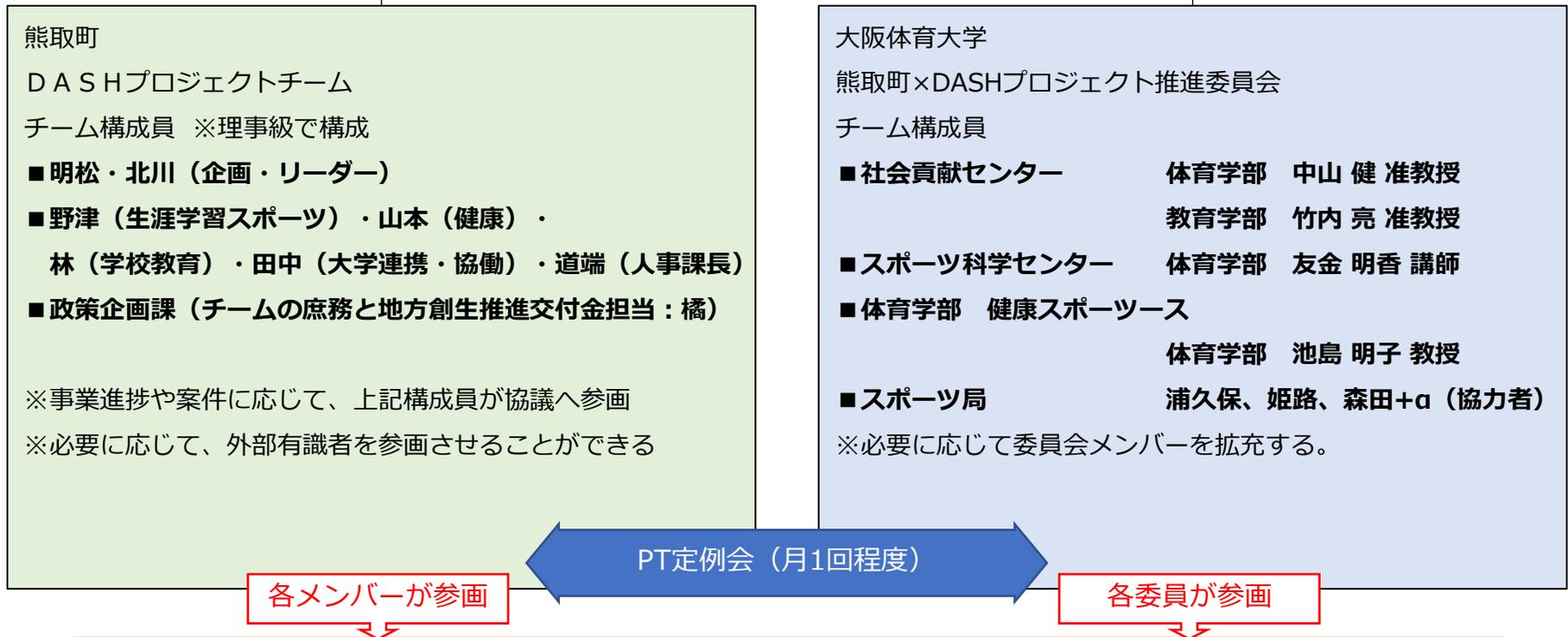
少子高齢化、人口減少社会の到来をむかえ、熊取町と大阪体育大学は住民の健康増進および町の活性化を図るため、運動・スポーツを通じて、永く楽しく元気に暮らせるまちづくりを協働で推進する。



めざすべきまち・大学の姿

- 熊取町第4次総合計画（2018-2027）にもとづく、めざすべき「まち」の姿
「住みたい、住んでよかった、ともにつくる“やすらぎ”と“ほほえみ”のまち」の実現をめざします。
- 大体大ビジョン2024（2015-2024）にもとづく、めざすべき「大学」の姿
「大体大、新しい時代を切り拓く」の決意のもと、幸福で健康な社会づくりと、それを支える体育・スポーツ・健康分野の専門人材の育成と輩出の拠点づくりをめざします。

“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会



以下の5つの主要施策に係る両者の「合同WG（作業部会）」を近日中に組成し、具体的事案の検討を進める

1. 運動・スポーツの推進
2. 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取組み
3. 運動・スポーツ等施設の共同利用の検討
4. 職員による人事交流の検討
5. 新たな施設・環境整備の検討

※開催頻度は各WGで検討（2ヶ月に1度程度）

“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクトの進行実績

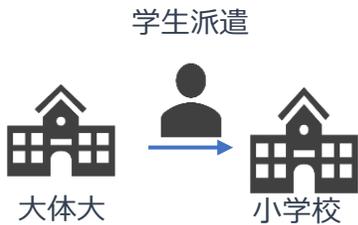


■実施計画 具体的な取り組み

- 1) 運動・スポーツの推進
小学校「放課後スポーツ教室」トライアル実施

■実施実績

小学校放課後スポーツ教室の開催検討・準備



小学生を対象に
・体力向上
・放課後の安心安全な遊び環境の創出

を目的として、本学学生にスポーツ指導に従事させる計画。

ただし、事業の責任範囲や保護者からの連絡・対応の体制、不測事態への対応などの懸案が確認された。

- ✓ 17年度末、18年度初、町内5小学校長に説明済（実施の理解と同意は得る）
- ✓ 本年度は西小をモデル校として実施（児童数456名）
- ✓ 6/13西小の現地調査→事業計画の詳細立案中
- ✓ トライアル実施の実施内容と日時の調整
- ✓ 2018年10月から本格実施→不参加となり継続して検討

※小学生児童数：2,676人（2016年5月1日現在）/5校

熊取町教育委員会を通じて、熊取町立小学校での放課後スポーツ事業開催の検討・準備を行ったが、児童の安全な帰宅管理と、学童保育団体との棲み分けなどがつかず、小学校での本事業の展開は見送りとなった。スポーツや運動参加促進のための環境づくりのため、引き続き、本事業の実現に向けては熊取町側との協議・調整は図りたい。

■実施計画 具体的な取り組み

- 1) 運動・スポーツの推進
 中学校「外部指導者派遣事業」トライアル実施
 本格的稼働

■実施までの経緯

中学校への指導者派遣事業の開催検討・準備

中学校部活動を対象に

- ・継続的なスポーツ環境の創造 (for熊取町)
- ・将来のスポーツ界を担うキャリア形成 (for大体大生)

を目的に、スポーツ庁が先導する**運動部活動改革**と外部指導者の派遣など計画。ただし、派遣する指導員(学生)の質の担保や教育、フォローについては学校現場の懸念もあり、研修制度を設けて指導力向上を努めたい。また事業継続性を加味して**事業性の検証も必要**。

※中学生生徒数：1,322人（2016年5月1日現在）/3校

| | バレー | 陸上 | バスケ | テニス | 野球 | 卓球 | サッカー | 水泳 | 剣道 |
|----|------------|----|------------|------------|----|----|------|----|----|
| 熊中 | 男12 女17 | 53 | 男15 女12 | 男31 女32 | 22 | 22 | × | 17 | 9 |
| 北中 | 女13 | 76 | 男32 女24 | 24 | 16 | 41 | 32 | 10 | 14 |
| 南中 | 女5 | × | 男30 女20 | 女20 | 20 | 30 | 30 | × | 10 |

■実施計画 具体的な取り組み

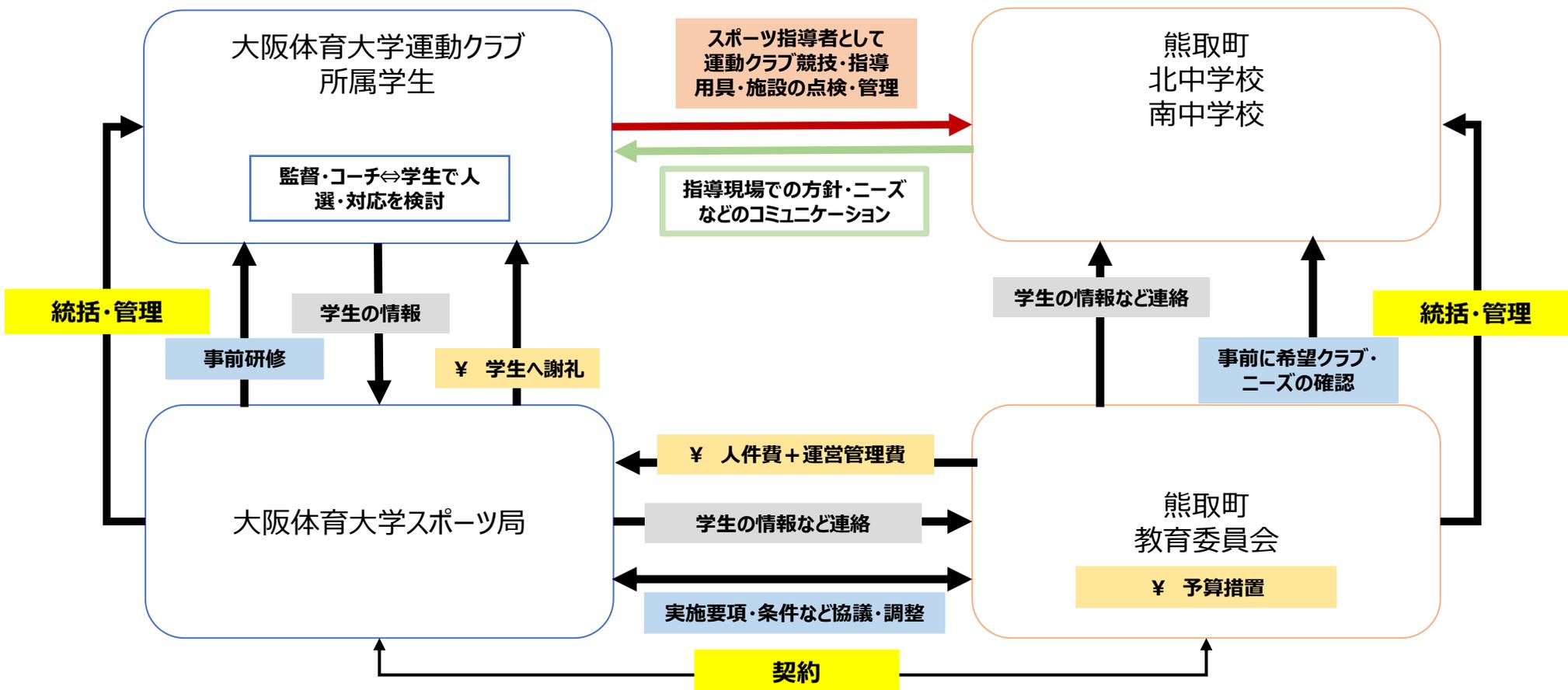
- 1) 運動・スポーツの推進
中学校「外部指導者派遣事業」トライアル実施

■実施実績

中学校「外部指導者派遣事業」トライアル実施 2019年3月28日

- (1) 対象校及び部活動
北中学校：男子バスケットボール部（男子12名/新2、3年生）
南中学校：（軟式）野球部（男子14名）、剣道部（男子9名、女子3名）
- (2) 派遣学生
本学の男子バスケットボール部（5名）、男子硬式野球（3名※）、剣道部（男女2名）
※男子公式野球部は柳田コーチ（スポーツ局）も帯同
全てのクラブ活動中、スポーツ局（浦久保、姫路、森田、森）で帯同・監察を行った。
- (3) 派遣時間（各々当日の事前や事後の打ち合わせ時間は除く）
北中学校：男子バスケットボール部（8:20～13:00）
南中学校：（軟式）野球部（9:00～11:00）、剣道部（9:10～11:00）
- (4) 実施結果
（学校側）好印象でトライアルは終わった。新年度の早期の実施を希望したい。
（生徒側）今後も指導に来て、一緒に練習したい。技術やフィットネスの高さに感銘した。
（学生側）良い経験になった。やりがいもあり、今後も継続して参画できればと考える。
- (5) 今後の予定
今回の実施を踏まえ、具体的な学生派遣の開始日時や頻度など、熊取町教育委員会と本学ならびに派遣先中学校と詳細を協議して決定したい。
本格実施にあたり、派遣学生氏名の明示（派遣者名の事前通知、名札の掲示など）や入校手続き、顧問との連絡体制、安全管理の責任の所在など実務上の懸案と調整が必要であるため、スポーツ局が事務局となり、本件の履行と推進環境を整備する（次稿参照）

中学校指導者派遣事業の実施スキーム（案）



▶ 派遣事業の概要

- 1回2時間
- 位置づけ：顧問の補助
- 事前研修
 1. 6時間の講座（スポーツリーグに相当）
 2. 安全・障害予防に関する知識・技能の指導
 3. 用具・施設の点検、管理の知識

- ・平日 105回（希望校につき上限週3回、1回2時間を想定）
- ・長期休業中 18回（各校につき週3回、1回3時間を想定）

■実施計画 具体的な取り組み

- 2) 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取り組み
既存事業に関する評価基準の策定
 - ・健康体操事業における体力測定の評価項目の見直し
 - ・測定スタッフへの研修による知識・技術の均一化を図る

■実施実績

本施策は、“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会のもと、合同WG = 健康作業部会で企画・推進を行った。作業部会は月例で実施。

1) 既存事業に関する評価基準の策定

健康体操事業における体力測定方法と基準は、過去に本学の教員が作成し、熊取町民のボランティアグループが体力測定の運営を行ってきた。この作成から時間がたち、機材の劣化などがあり、新たに熊取町で測定機材を2018年12月に購入した。これを受けて、本学のスポーツ科学センター担当教員が、測定方法の研修プログラム2回実施。ボランティアグループの測定スタッフの測定スキルの均一化を図った。

この研修プログラムを受講したボランティアグループの測定スタッフが、熊取町の健康増進施策や拠点で活動することにより、地域におけるエビデンスの収集体制の整備と展開に資することをつなげていきたい。

■実施実績



2月20日、本学・足立哲司准教授が、熊取町町民への体力測定方法研修会を実施。

これまで「くまとりタピオ元気体操」や「体力若返り講座」、また「体力測定方法」についても協働してきましたが、これらの既存事業のブラッシュアップ・活用につなげる取り組み。

足立准教授からは、機器の使い方の説明のみならず、実地での測定方法に関する留意点やポイント、また各測定項目の文部科学省の体力データなどとの比較説明もあり、参加者の健康体力の関心に応える内容であった。質疑応答では、測定方法に関して積極的な質問があり、足立准教授は専門家としての観点から、実地に合わせたポイントなどの回答とアドバイスを行った。

<https://ouhs-athletics.jp/news/190227-02/>



3月4日、前月20日開催に行われた熊取町町民への体力測定方法研修会のブラッシュアップを目的とした2度目の体力測定方法研修会が、本学・足立哲司准教授を講師として行われた。

足立准教授からは前回の研修会の振り返りが行われ、それについて参加者からの質疑応答がありました。その後、参加者同士が実際に体力測定を行いながら、測定方法のポイント説明や不明点の確認を実施。参加者への測定方法の定着を図った。

この研修会の受講者は、今後、熊取町の健康診断時や、ほかのボランティアグループのイベント開催時に、住民への体力測定を行うことになる。

<https://ouhs-athletics.jp/news/190317/>

■実施計画 具体的な取り組み

- 2) 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取り組み
健康体操事業のさらなる拡充と展開
 - ・地域においてプログラム推進を担う人材を育成する

■実施実績

本施策は、“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクト連絡協議会のもと、合同WG = 健康作業部会で企画・推進を行った。作業部会は月例で実施。

2) 健康体操事業のさらなる拡充と展開

くまとりタピオ元気体操の指導、タピオステーション取り組み報告、情報交換会という内容で、町内に20箇所あるタピオステーションから約60名の会員が参加。くまとりタピオ元気体操の監修、そして、昨年3月に熊取町とDASHプロジェクト協働協定を結んでいる本学からは、体育学部健康スポーツマネジメント学科 池島明子教授が出席、くまとりタピオ元気体操の指導や、情報交換の進行役を務め、プログラム推進を担う人材を育成を図った。

※くまとりタピオ元気体操：大阪体育大学 池島教授が立案・作成した高齢者の健康づくりを目指す、体操・エクササイズ

※タピオステーション：「くまとりタピオ元気体操」の地域への普及を促進する、地域拠点

■実施実績



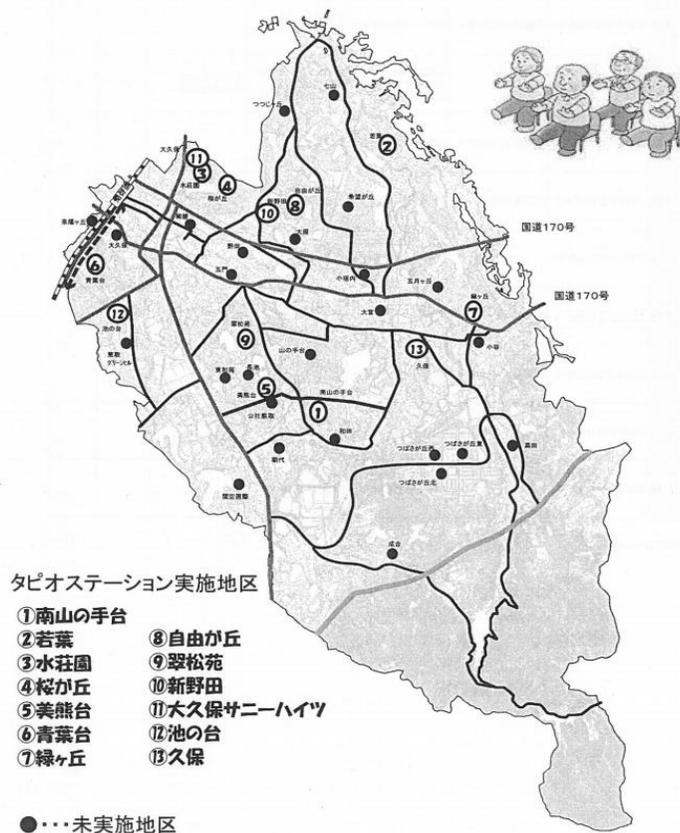
2月19日に『平成30年度タピオステーション交流会』が、熊取町にある熊取ふれあいセンターにて行われました。

健康維持を一番の目的に、熊取町からの依頼で同町にキャンパスを置く本学がプログラム開発をした「くまとりタピオ元気体操」および「タピオ+（プラス）」。町の後押しで町内の各地域が主体となって週に1～2回実施することで町内に広く普及していますが、その体操を実施する場が“タピオステーション”です。
日ごろは顔を合わせることの少ない他地区のタピオステーション間の交流の場として、昨年度から町主催で交流会が始まりました。

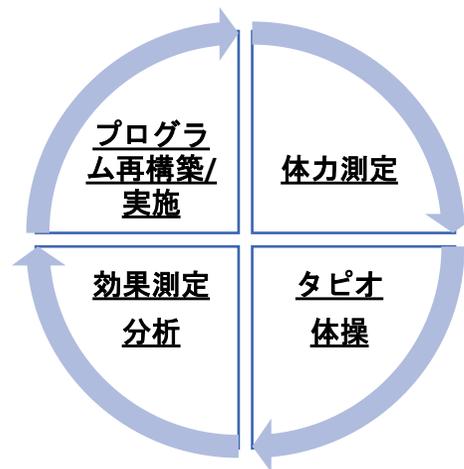
<https://ouhs-athletics.jp/news/190227-01/>

■ 将来の展望・イメージ

タピオステーション町内マップ



① 全38地区への展開



③ タピオステーションへの学生参画、若返り講座と保健指導との関連施策、住民参画イベント（仮称・健康くまとりフェア）の2019年度以降の企画・開催を検討

■実施計画 具体的な取り組み

- 2) 健康寿命延伸や医療費等の削減に向けた取り組み
熊取町における高齢化問題の解決に向けた環境づくり（測定データの可視化により施策を検証する）

■実施実績

2018年11月に2018年度の測定結果と参加者アンケートの一部を、熊取町が本学に提示。
その集計とパイロット分析は2019年度熊取町施策として予算化された。

今後の予定

1. 2018年度データの集計と分析
2. 現状の体力測定項目の洗い出し、絞り込み
3. 体力増進に効果のある、施策の確認
4. 2020年度以降の施策のコンサルティング
(参考資料⑤)

■実施計画 具体的な取り組み

本学所在地の熊取町のみならず、他地域との連携による拠点づくりや施策検討や展開。

■実施実績

本学における体力若返り講座の開催



本学では高齢者が個々の体力の維持・増進をめざす元気でいきいきと生活するための

- ・健康づくりに関する座学
- ・運動習慣を身につけるための実技

の2部構成による「**体力若返り講座**」を2013年度から開催している。

講座の最初と最後には体力測定を行い、その成果や向上の確認、課題などの把握を行っている。

田尻町へのオリジナル体操の展開と活用支援



本学の近隣自治体である田尻町は「田尻町8000人の健康大家族」を目指し、町民の健康寿命延伸のための施策を展開している。同町の健康づくりとシティプロモーションを促すオリジナル健康体操の監修依頼を受け「**たじりっち体操**」の設計・制作を2017年度に参画。2018年度は、同体操の住民へのデモンストレーションを学生が主体として行い、加えて、本学の三島研究室による、体力・運動能力測定会も実施した。

2018年10月5日(金)～12日(金)

上海市体操運動センター来校



本学体操競技部と技術・国際交流を深めた。本学の選手にとってスポーツを通じたこのような国際交流は、レベルの高い他国の選手から技術的な情報や精神的な刺激を得る良い機会となるだけでなく、学生選手の全人的な成長と卒業後も含め、学生の人生の可能性を広げる効果も期待されている。

2018年11月18日(日)

大阪府剣道道場連盟主催「剣道練成会」



同練成会は、本学剣道部員による指導稽古という形で開催され、大阪府剣道道場連盟に加盟する大阪府下の25道場302名もの小中学生剣士が参加。

2018年11月18日(日)「出張!ギソクの図書館 in OSAKA」@大阪体育大学開催



関西パラアスリート応援プロジェクト。本学OBの山本篤氏(北京・リオパラリンピック走り幅跳び銀メダリスト、リオパラリンピック4×100mリレー銅メダリスト)を講師に迎え、開催

実施実績

2018年11月29日 (木)
指導者セミナー開催



本学教職員だけでなく、地域自治体の教育関係者へも参加を呼びかけ、大阪市など、複数の地域自治体の教育関係者が参加。講演は、事故・ハラスメントの防止、コンプライアンス・ガバナンスなどの不祥事防止、ドーピングといった3つのテーマで進められました。その後の質疑応答・ディスカッションの時間では、「体罰と懲戒の違い、範囲」や「責と暴言の違い」といった質問に対し、実例を引用してのディスカッションを展開。専門家である弁護士ならではの、現場のニーズに寄り添った内容のセミナーとなった。

2018年12月3日 (月) フレンドリーマッチ
2018大阪体育大学×武庫川女子大学を開催



学生の対抗戦にはないイベント性を持たせ、新たな大学スポーツ応援カルチャーを提案した。

- 一般、学生へのチケットを¥500で販売
- 観客総数：500名
- 照明、DJブースの設置
- 他のクラブ、なぎなた、ダブルダッチのエキシビション
- 地元ダンスサークルのエキシビション

2019年2月24日 (日)
「OUHSスポーツデー2019」を開催



キャンパスを地域に開放し、学生と地域住民が交流できる、本学がめざす拠点づくりの一環として、既存部署が主催するイベントの日程や内容の調整をスポーツ局で調整・企画し実施

- 富士薬品セイムスカップ
- 和歌山ゴールデンキッズ
- OUHSスポーツキャンプ
- 全国SA会議
- 学内宝探し
- 健くま隊のタピオ体操 (熊取町)
- 350G量りましょう (熊取町)

5. 実施報告

(3) (1) (2) の施策の効果的な推進

- ① 「大学スポーツアドミニストレーター (SA) 会議」の開催
- ② 大学スポーツの振興に資する取り組み
 - 1) UNIVAS設立準備委員会への参加
 - 2) KCAA会議、総会への参加
 - 3) 日本スポーツマネジメント学会第11回大会での研究論文発表
 - 4) 大阪大学SRIP 平成30年度 若手研究者育成プログラムで研究発表
 - 5) 大学スポーツ応援文化の醸成 = 男女ハンドボール部インカレでの、応援サポート

■ 実施計画 具体的な取り組み

各大学でのスポーツ推進を担うSAによる担当者会議の企画

■ 実施実績

2019年2月24日 (日) 開催

全国の大学の「スポーツアドミニストレータ」が一堂に会し、日頃直面する様々な問題や事例、今後の方向性などを、現場からの視点で語り合い、共有するためのシンポジウム「全国大学スポーツアドミニストレーター会議」を開催。

大阪体育大学は2015年の開学50周年に、次の10年を見据えて発表した「大体大ビジョン2024」の「拠点づくりビジョン」のもと、体育・スポーツ・健康・福祉で社会の活性化に貢献する「拠点」となることを目標に掲げた取り組みをスタートさせた。

本会議では、本学スポーツ局の取り組み紹介や、女子ハンドボール部の楠本繁生監督の基調講演、大学スポーツ現場における課題や成功事例などを共有する公開ディスカッションを実施。各大学におけるスポーツ推進の様々な課題や実践的な知見を共有する好機となった。



(3) (1) (2) の施策の効果的な推進

②大学スポーツの振興に資する取り組み

■実施計画 具体的な取り組み

1) UNIVAS設立準備委員会への参加

■実施実績

| 日付 | 名称 | 議題 | 場所 |
|-------------|------------------|---|---|
| 2018年9月19日 | 設立準備委員会作業部会（第3回） | <ul style="list-style-type: none"> 日本版NCAAの組織整備（案）について スポンサープログラム及び賛助制度（案）について 各テーマの進捗報告 今後のスケジュールについて | 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル7階デロイトトーマツグループ セミナールーム |
| 2018年11月5日 | 設立準備委員会作業部会（第6回） | <ul style="list-style-type: none"> 各テーマの制度案について | 東京都千代田区霞が関3丁目2-2 文部科学省旧庁舎6階 第2講堂 |
| 2018年12月11日 | 設立準備委員会作業部会（第7回） | <ul style="list-style-type: none"> 発足当初からUNIVASが提供に取り組む事業概要 共通論点に関する整理 UNIVASの役員選考について UNIVASへの入会申込手続き等 | 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省13階 13F1~3 |
| 2018年12月26日 | 設立準備委員会（第4回） | <ul style="list-style-type: none"> 共通論点に関する整理 今後の法人設立の手続き、UNIVASへの入会申込手続き等 人事構想委員会の設置について 発足当初からUNIVASが提供に取り組む事業概要（予定）及び加盟大学・加盟競技団体が2019年度より実施する事項 個別テーマからの報告 UNIVASの主要役員人事について | 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省東館3階 第1講堂 |
| 2019年1月25日 | UNIVASブロック説明会 | <ul style="list-style-type: none"> ブロック説明会 | 大阪府茨木市岩倉町2-150 立命館いばらきフューチャープラザ |
| 2019年2月25日 | 設立準備委員会（第5回） | <ul style="list-style-type: none"> UNIVASの人事について 組織整備に係る事項について 法人設立に係る今後のスケジュール その他 | 東京都千代田区霞が関3-2-2 文部科学省東館3階 第1講堂 |

■実施計画 具体的な取り組み

2) 大学スポーツコンソーシアムKANSAI 会議、総会への参加

■実施実績

2019年1月29日 (火)

『一般社団法人 大学スポーツコンソーシアムKANSAI スポーツアドミニストレーション会議』開催。

本学から、浦久保和哉スポーツ局統括ディレクター、森田卓スポーツ・アドミニストレーターが出席。「スポーツ・アドミニストレーター (SA)について理解を深める研修会」では、両名が登壇、浦久保統括ディレクターは、大学スポーツの振興とSA施策の経緯と背景 NCAA及び海外でのSAの役割・位置づけなどについての紹介、森田スポーツ・アドミニストレーターは、大阪体育大学スポーツ局の成り立ちや、組織体制、取り組みについて報告した。

2019年3月9日 (土)

一般社団法人大学スポーツコンソーシアムKANSAIによる公開シンポジウムに出席。

「スポーツで関西を元気に！」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、本学の藤本淳也教授 (KCAA副会長) がファシリテーターを担当。パネラーの一人として松田基子准教授が登壇し、全日本柔道連盟が行った改革や新たな取り組みについて紹介した。

『一般社団法人 大学スポーツコンソーシアムKANSAI
スポーツアドミニストレーション会議』



一般社団法人大学スポーツコンソーシアムKANSAI
による公開シンポジウム



(3) (1) (2) の施策の効果的な推進

②大学スポーツの振興に資する取り組み

■実施計画 具体的な取り組み

3) 日本スポーツマネジメント学会第11回大会での研究論文発表

■実施実績

2019年3月4日(月)～5日(火)

日本スポーツマネジメント学会第11回大会(実行委員長:富山浩三教授)で研究発表。

本学、スポーツ局の浦久保和哉と森田卓が「大学スポーツ振興のための組織体制の検証」と題し、大阪体育大学スポーツ局創設の背景、現状の取り組みなど紹介し、各大学におけるスポーツ統括体制の整備の一助となる研究発表を行った。

大学スポーツ振興の統括組織の創設経緯や組織的な位置付け、機能などを分析・研究したものはまだ目新しく、質疑も多数出て、活発な討議を促し、大学スポーツやその統括体制について、関心を喚起することができた。

日本スポーツマネジメント学会第11回大会 大会号原稿(実践研究) 浦久保和哉

大学スポーツの振興のための組織体制の検証:

大阪体育大学スポーツ局の組織分析

○浦久保 和哉(大阪体育大学スポーツ局)

森田 卓(大阪体育大学スポーツ局)

キーワード:アスレティックデパートメント、スポーツ・アドミニストレーター、組織体制

背景 2016年、文部科学省は「大学スポーツの振興に関する検討会議」を設置。2017年3月「大学のスポーツの価値の向上に向けて～」と題し最終とりまとめが行われた。それより大学スポーツは、大学スポーツの振興を推進するため、大学統括的かつ継続的な統括組織と、各大学でスポーツを推進するための体制として「大学スポーツ・アドミニストレーターの配置」などの支援を通じ、大学スポーツの政策的な推進に取り組みはじめていく。2019年3月には「一般社団法人大学スポーツ協会」の創設が予定される中、2018年12月11日時点でその設立準備機関である「大学スポーツ協会設立準備委員会」以下「準備委員会」とする。加盟校は、全国300近くの大学のうちの77大学にとどまり、本学への参加の意向や協賛、参画の意向は賛否があると思われる(スポーツ庁HP, 2018)。

一方、準備委員会作業部会では、各校の大学スポーツ振興に向けた学内整備の「手引き」作成も進められ、各校の取組例などの取組と各大学の「アスレティックデパートメント(A/D)」設置に向けた組織体制の整備の促進が企図されている。ついでに、数少ない取り組みで普遍性を見出すことが難しい初期段階において、先行着手している事例検証と共有は意義のあるものであると考える。

目的 スポーツ庁が「大学スポーツ振興の推進事業」に指定した大阪体育大学(以下「大体大」とする)のスポーツ局を対象に、その創設の背景や現状を整理、他学における大学スポーツの振興策やその体制構築のための取組の共有と、各校におけるスポーツ統括体制整備の一助とすべくその検証を行う。

方法 マッキンゼー・アンド・カンパニー社が提唱した組織分析のフレームワークである「7S」を用いる(McKinsey & Company HP, 2018)。「7S」とは組織を「ハードのS: Strategy(戦略)・Structure(組織構造)・System(システム)」と「ソフトのS(Shared value(共通の価値観)・Style(経営スタイル)・Staff(人材)・Skill(能力))の経営資源の相互関係を把握するものである。優れた企業では、その7つの要素が高水準で揃って作用しているとも言われており、組織の現状を改善するために今では多くの経営幹部や経営者、組織変革コンサルタントなどが利用している。このフレームワークを用いて、2018年4月に開設された大体大スポーツ局の組織状況や構造を客観的に検証する。

結果と考察 「7S」により大体大スポーツ局の組織体制やその構造は以下のように整理・検証された。競争

優位性を維持するための事業の方向性である「①戦略」は、「設置目的」と10に明示された「業務」と「事業」に列記され、後述する組織構造や人材などが構築、配置されている。それらは大体大が50周年を記念して定めた大体大ビジョン2024の具現化を図るものであり、大体大の成長と将来構想の実現と展開を図るために既存の大学組織と異なる戦略的な施策が想定されるものであった。組織形態や構造を示す「②組織」は、①でも検証されたように戦略的かつ意図的に構築され、既存組織の学部や大学院と並列でありながら、その機能はそれらの機能統合を図るような機構で設計されている。「③システム」は、現在、構成員や大学という非営利組織が収益性を追求するような営利性も期待されていることから、新たな組織体制や業務管理、会計制度の導入が期待される。「④価値観」は、大学という教育・研究組織でありながら大体大ビジョンが企図する「教育づくり」の推進を図る戦略的組織であり、体育大学としての大体大スポーツ振興を基軸に据えた組織づくりである。「⑤スタイル」は学内の運動クラブや学生アスリートなどのマネジメントと地域貢献など対外的な事業企画推進を有し、既存学内組織にない内外両面的な特性を表している。「⑥人材」もクラブの指導者やそのサポートスタッフから事業の企画・推進を担うマネジメント人材まで多様な人材が配置、また協力会社なども積極的に活用されている。「⑦スキル」もスタッフにより求められるものは異なり、スポーツ局全体としては多岐である。以上のように大体大では先行して既存大学組織にはない組織及び体制の確立に取り組んでいる。

引用 ●スポーツ庁ホームページ「一般社団法人 大学スポーツ協会設立概要」(http://www.mext.go.jp/sports/h_menu/sports/univas/index.htm) (2018年12月19日閲覧)

●McKinsey & Company ホームページ (https://www.mckinsey.com/business-functions/strategy-and-corporate-finance/our-insights/ending-ideas-the-7-s-framework) (2018年12月19日閲覧)

■実施計画 具体的な取り組み

4) 大阪大学SRIP 平成30年度 若手研究者育成プログラムで研究発表

■実施実績

2019年1月25日（金）

大阪大学SRIP平成30年若手研究者育成活動発表会で研究発表。

スポーツ庁が大阪大学に委託している「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP)」(※)において、若手研究者育成活動を実施しており、その活動発表会で、本学の大阪体育大学大学院 スポーツ科学研究科 1年 2名が活動報告を行った。

本学と、大阪大学大学院医学系研究科は、両者の特性・強み及び資源の活用を図り、相互に連携及び協力することで我が国のスポーツ、学術及び科学技術の振興、発展並びに人材育成の推進を図り、社会貢献を果たすことを目的とし、包括連携協定を締結している。

(※) 2020年東京オリンピック・パラリンピックでのトップアスリートの活躍やその後の競技力向上を目指し、スポーツと異分野の融合・連携による独創的で革新的な研究を推進し、次世代の中核を担う優秀な若手スポーツ研究者を育成する事業

大阪大学SRIP平成30年若手研究者育成活動報告①

エリートテニス選手の有効打となった1stサービスのボール性質について-エリートジュニアテニス選手と比較して

大阪大学SRIP平成30年若手研究者育成活動報告②

大学テニス選手における試合時の心拍数変動がボール性質に及ぼす影響

■実施計画 具体的な取り組み

5) 大学スポーツ応援文化の醸成

■実施実績

2018年11月10日(土)～14日(水)

大学スポーツ応援文化の醸成を目的に、男女ハンドボール部の全日本学生選手権決勝戦での、学生・教職員の観戦促進と、応援環境づくりに取り組んだ。

- ・ 応援グッズの配布
- ・ 学内に決勝応援への参加メールを配信
- ・ 学内教室でのライブビューイングの開催
- ・ 優勝横断幕の作成



■実施計画 具体的な取り組み

5) 大学スポーツ応援文化の醸成

■実施実績

2018年12月3日（月）
女子バスケットボール部の交流戦「フレンドリーマッチ
2018 大阪体育大学×武庫川女子大学」を開催。
学生の対抗戦にはないイベント性を持たせ、新たな大学ス
ポーツ応援カルチャーの醸成に取り組んだ。

- 観客席を整備し、その有料販売を行った。
- 照明、DJブース設置による本格的な場内演出の実施。
- 他クラブ（なぎなた、ダブルダッチ）や地元ダンスサークルのエキシビションも誘致。
- 500名余の来場者を集め、Bチーム同士の対戦にも関わらず、学生スポーツでは異例の盛況ぶりを博した。

なお、本件は、「（一社）大学スポーツコンソーシアム
KANSAI」の応援文化醸成を目的とした特別協賛事業とし
ても開催されました。



© 大阪体育大学



©大阪体育大学



©大阪体育大学



©大阪体育大学

“SPORTS”の語源であるラテン語の“deportare”には、「**憂いを取り去る**」という意味があります。
スポーツが持つ魅力は、社会の憂いを「幸せ」と「希望」に変える可能性が秘められています。

まさに「**スポーツの拠点**」があることで、**活気を生み出します**

大体大・トップアスリートの「**活躍**」

トップアスリートへの「**憧れ**」

郷土のアスリートを応援する「**熱意**」

自分も運動したい！という「**共感**」

この街で暮らしたい「**愛着**」

スポーツの拠点から世界的に活躍する 郷土のアスリートが誕生すれば……

- 自分たちの街を誇りに思うようになります！
- 「自分も頑張ろう」という活力が生まれます！
- 「アスリートを応援したい」という一体感が生まれます！
- 「自分もこの街で暮らしたいという」定住希望者が増えます！